

医学部看護学科カリキュラムマップ

	区分		1年		2年		3年		4年	
	分類	領域	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	教養基盤科目	アクティブ・ラーニング	スタートアップPBLセ	教養セミナー						
		外国語教育	英語 ITOEIC							
			英語 I 大学基礎							
			英語 I コミュニケーション							
		異文化理解		異文化理解 I 基礎 a 異文化理解 I 演習 a	異文化理解 I 基礎 b 異文化理解演習 I b					
	健康科学		スポーツ健康科学 a	スポーツ健康科学 b						
	基礎教育		データサイエンス I							
教養統合科目	地域理解・日本理解		医学医療入門	選択科目						
	国際理解・現代社会理解		選択科目							
	現代科学理論		選択科目							
専門教育科目	基礎看護学	基礎看護論*		看護技術論 I *	看護技術論 II *	看護技術論 III *			看護システム論 I *	看護システム論 II
				基礎看護学実習 I *	基礎看護学実習 II *					
				看護病態学 I *	看護病態学 II *					
					看護病態学 III *					
					看護理論と看護過程*					
				医療倫理 I *						医療倫理 II *
		人体構造学*		食生活論						
		人体機能学*		ストレスと健康*						
	生化学・栄養学*		関係法規*							
			生涯発達論*							
	成人・精神看護学			成人看護学 I *	成人看護学 II *	成人看護学 III *				クリティカルケア看護
						成人看護学実習 I *	成人看護学実習 II *			
				精神保健看護論*	精神看護学 I *	精神看護学 II *	精神看護学実習*			
	母性・小児看護学			小児看護学 I *	小児看護学 II *	小児看護学 III *	小児看護学実習*			
				母性看護学 I *	母性看護学 II *		母性看護学実習*			
						助産論 I			助産論 II	
						助産診断学 I				
						助産診断学 II				
地域・老年看護学				公衆衛生看護学 I *	公衆衛生看護学 II *			公衆衛生看護学実習	公衆衛生看護管理論	
				老年看護学 I *	老年看護学 II *	老年看護学実習 I *				
						老年看護学実習 II *				
			災害看護学*	保健情報統計学	保健医療福祉行政論*			地域診断学実習	国際看護学	
					地域保健・疫学*				産業保健	
					認知症と看護*				学校保健	
			いたみのチーム医療・集中コース		在宅看護論 I *			在宅看護論 II *	看護研究 (卒論) *	
					看護学基礎ゼミナール*			看護学専門ゼミナール*		
					看護研究方法論*			統合実習 I *		
								統合実習 II *		
			看護国際コミュニケーション基礎							
		看護国際コミュニケーション研修								

*印はコア科目

医学部 看護学科

区分	到達目標	ディプロマポリシーとの関連							
		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
人体の構造・機能、 疾病とその回復促進	・様々な健康レベルにある人たちの身体的・心理的健康状態と疾病の発生・回復のメカニズムについて説明することができる。		◎	○					
健康現象の疫学と健康支援の基礎	・健康管理や保健活動に必要な ICT による健康情報の検索・収集・解析・管理、集団の健康状態の把握、疾病予防・健康増進に向けた結果活用の概要を説明できる。		◎	○		○	○		
基礎看護学教育 (講義・演習・実習)	・看護学の理論、看護の目的・役割について説明できる。 ・対象の日常生活の支援に必要な知識と技術を応用し、模擬場面に適した看護を主体的に実施できる。 ・患者の健康状態、療養生活への認識・心情・ニーズを理解し、退院後の生活も考慮した看護支援を発想・実施できる。 ・看護実践過程と自身を内省し、得た学びを表現できる。	○	◎	○	○			○	○
対象別看護学教育 (講義・演習・実習)	・ライフステージ／健康レベル別の対象の身体・精神・社会的情報を収集して統合アセスメントを行い、看護問題の抽出と個別性を重視した看護の発想ができる。 ・全人的な看護実践能力を発揮し、看護専門職に相応しい態度により対応できる。	◎		◎	◎	○	○	○	○
科学的根拠に基づく看護の展開	・対象の QOL 向上のための科学的根拠を提示できる。 ・適切な医療・地域資源活用による療養生活・健康増進のための看護と多職種連携を考え、実施して評価できる。	○		○	○	◎	◎	◎	◎

1. 人々がより健康にその人らしく生きるために、看護職として人の尊厳と生命を尊重して行動することができる。
2. 看護学の観点から人間を総合的に理解し、良質で安全な看護を実践するための基本的知識と技能を身につけている。
3. 科学的根拠を踏まえて看護に関する課題を発見し、論理的・批判的思考により課題を解決することができる。
4. 人々との相互関係を成立・発展させるために、豊かな感性を備えたコミュニケーション能力を身につけ、対話や討論の場において発揮することができる。
5. 保健医療福祉システムの中で看護の専門性を発揮し、多職種連携における役割を担うための基盤となるリーダーシップ・フォロワーシップを身につけている。
6. 国際社会や地域社会における健康問題や社会の変化などの動向を視野に入れながら、看護に求められる役割を見出すことができる。

7. 看護の課題を探究し、看護学の発展につながる研究的態度を身につけている。
8. 専門職として看護の質の向上を常に目指し、自己評価と他者評価をもとに看護実践を省察し、自律的に生涯学び続けようとする態度を身につけている。